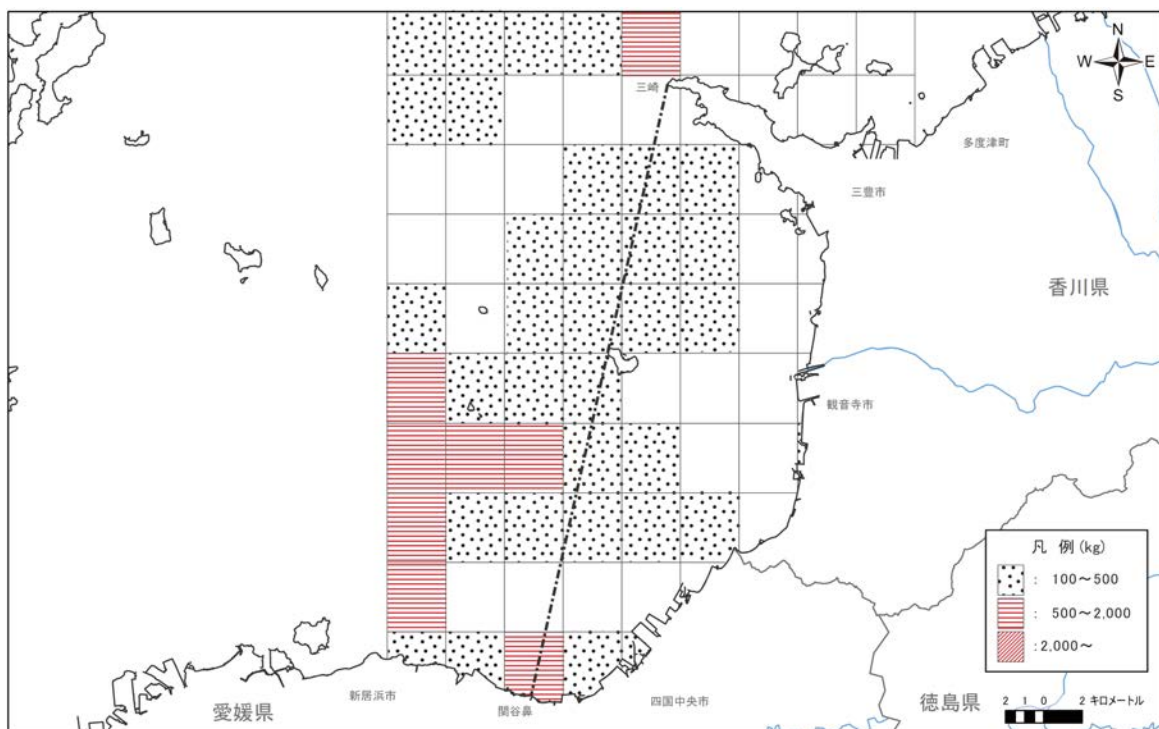


出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

図 3.10(5) 主要魚種の漁場分布図（ガザミ）



出典：水産庁：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月）より作成

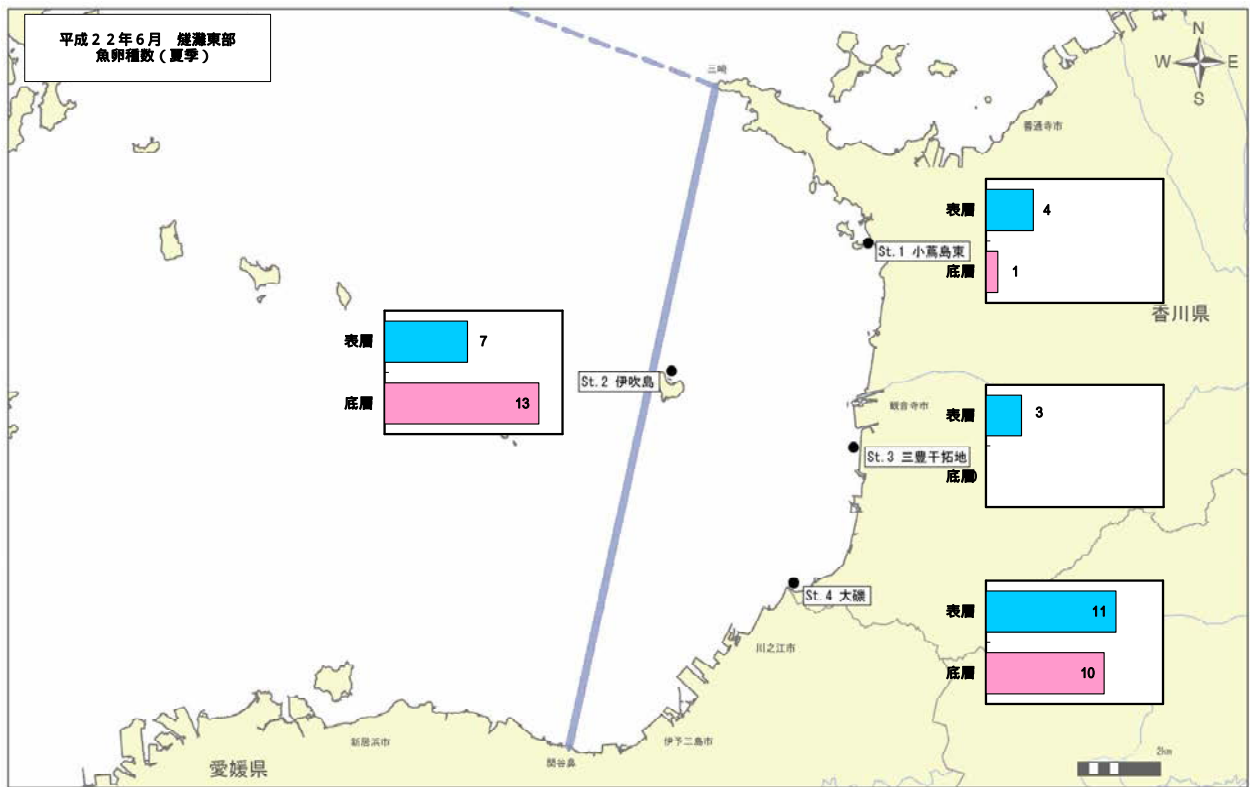
図 3.10(6) 主要魚種の漁場分布図（クルマエビ）

表 3.7 主要魚種の産卵場及び生育場について

| 主要魚種名 | 内 容 |
|-------|---|
| スズキ | 卵は中央部の島しょ部藻場において確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。燧灘東部にはスズキの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料（親魚の分布域を示す漁場環境評価メッシュ図）から、北部の浅場、中央部の浅場、中央部の島しょ部浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。 |
| イシガレイ | 卵は確認されなかったが、稚仔魚は北部の干潟・藻場及び南部の藻場で確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場としては中央部の浅場、南部の浅場を、生育場としては北部の藻場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。 |
| マコガレイ | 卵および稚仔魚は確認されなかった。ヒアリング調査結果及び既存資料から、産卵場としては中央部の浅場、南部の浅場を、生育場としては北部の浅場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。 |
| ヒラメ | 卵は中央部の島しょ部藻場、及び南部の藻場で確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、産卵場としては中央部の浅場、南部の浅場を、生育場としては北部の藻場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。 |
| マダイ | 卵は中央部の島しょ部藻場、及び南部の藻場で確認されたが、稚仔魚は確認されなかった。燧灘東部にはマダイの産卵に適した場所はないことから産卵場としての利用の可能性は低いと推定した。生育場については、現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から、北部の藻場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。 |
| ガザミ | 卵は確認されなかったが、稚ガニは北部の干潟・藻場において確認された。現地調査及びヒアリング調査結果、既存資料から産卵場としては中央部の浅場を、生育場としては中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。 |
| クルマエビ | 卵及び稚エビは確認されなかった。ヒアリング結果及び既存資料から産卵場としては中央部の浅場を、生育場としては北部の浅場、中央部の浅場、南部の浅場を利用している可能性が高いと推定した。 |

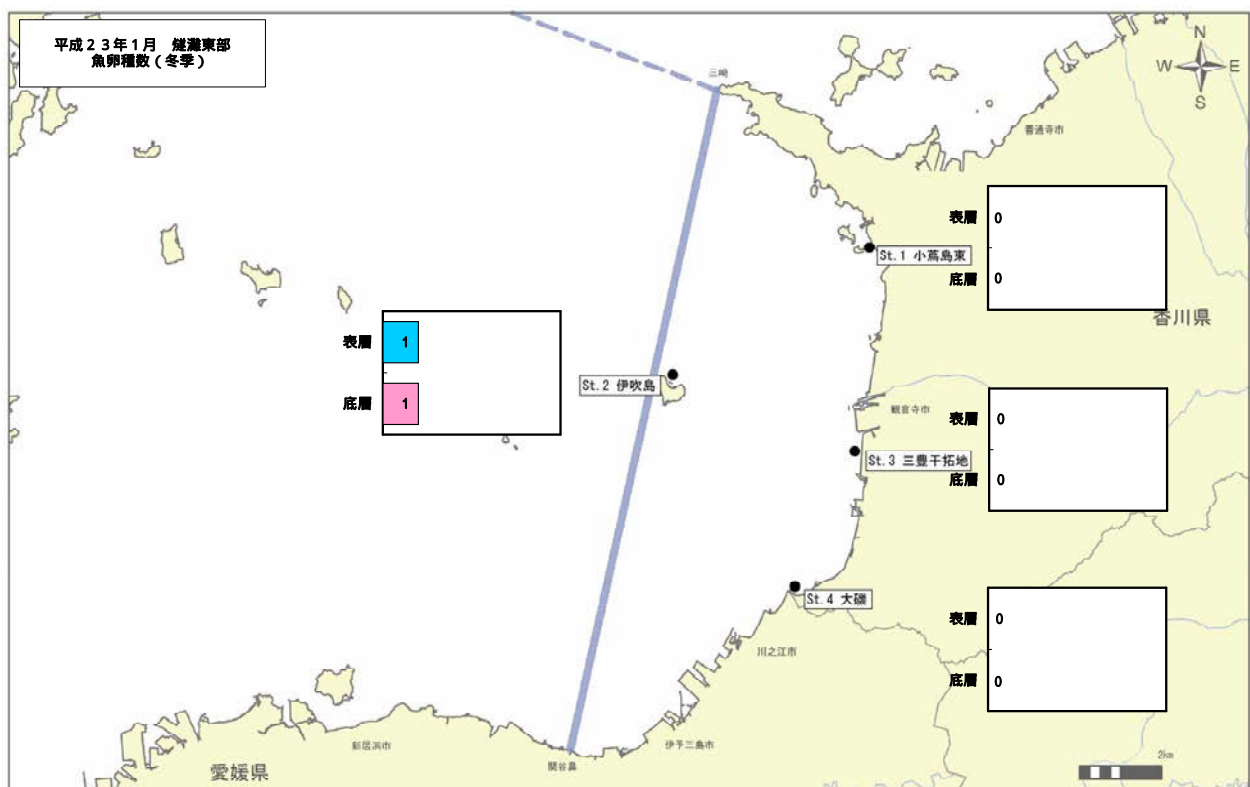
既存資料：漁場環境評価メッシュ図，瀬戸内海（平成 11 年 3 月、水産庁）

出典：「平成 22 年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成



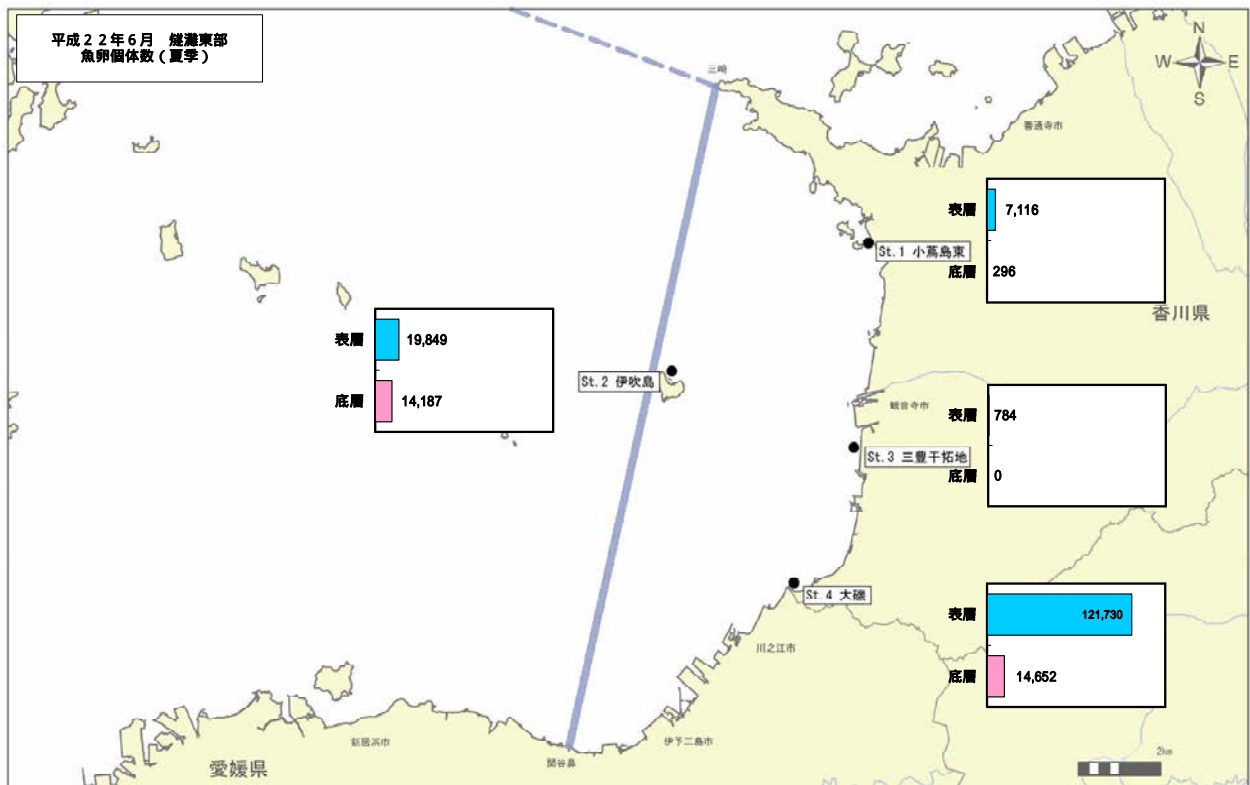
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(1) 魚卵種数の出現状況(夏季)



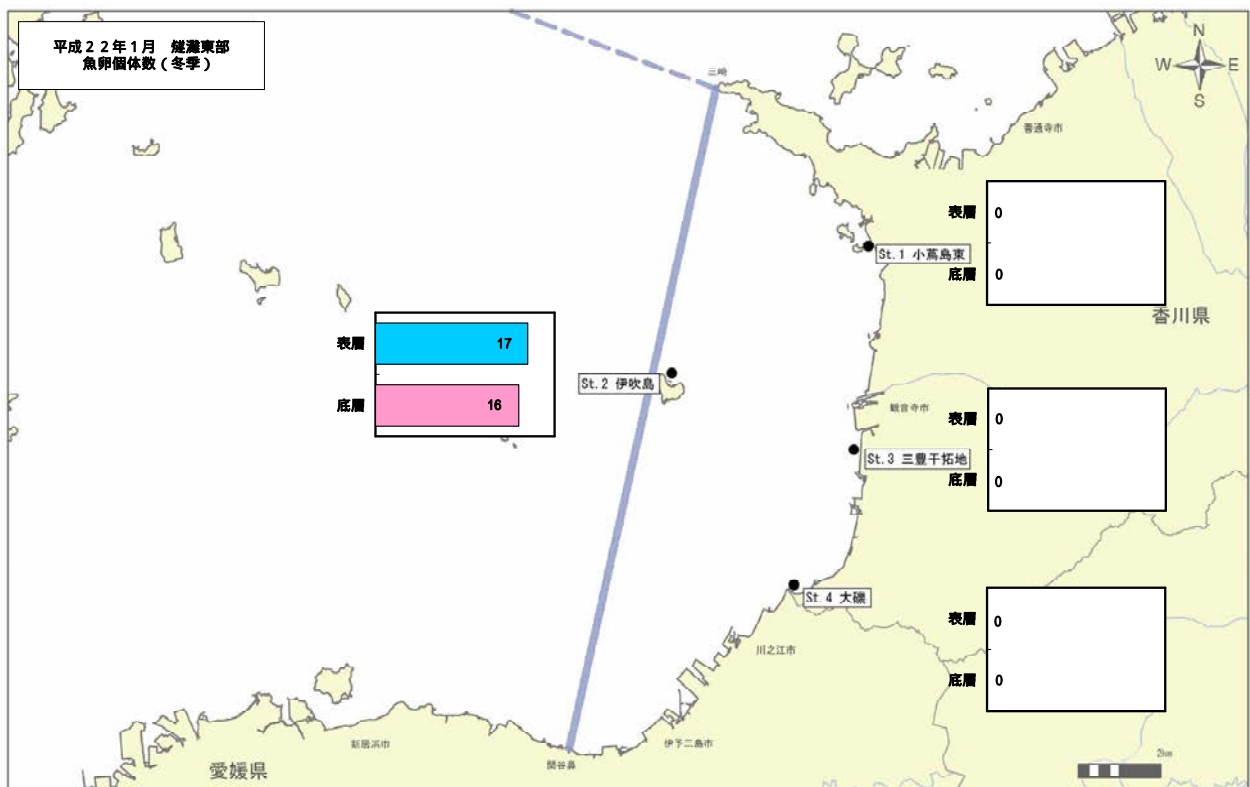
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(2) 魚卵種数の出現状況(冬季)



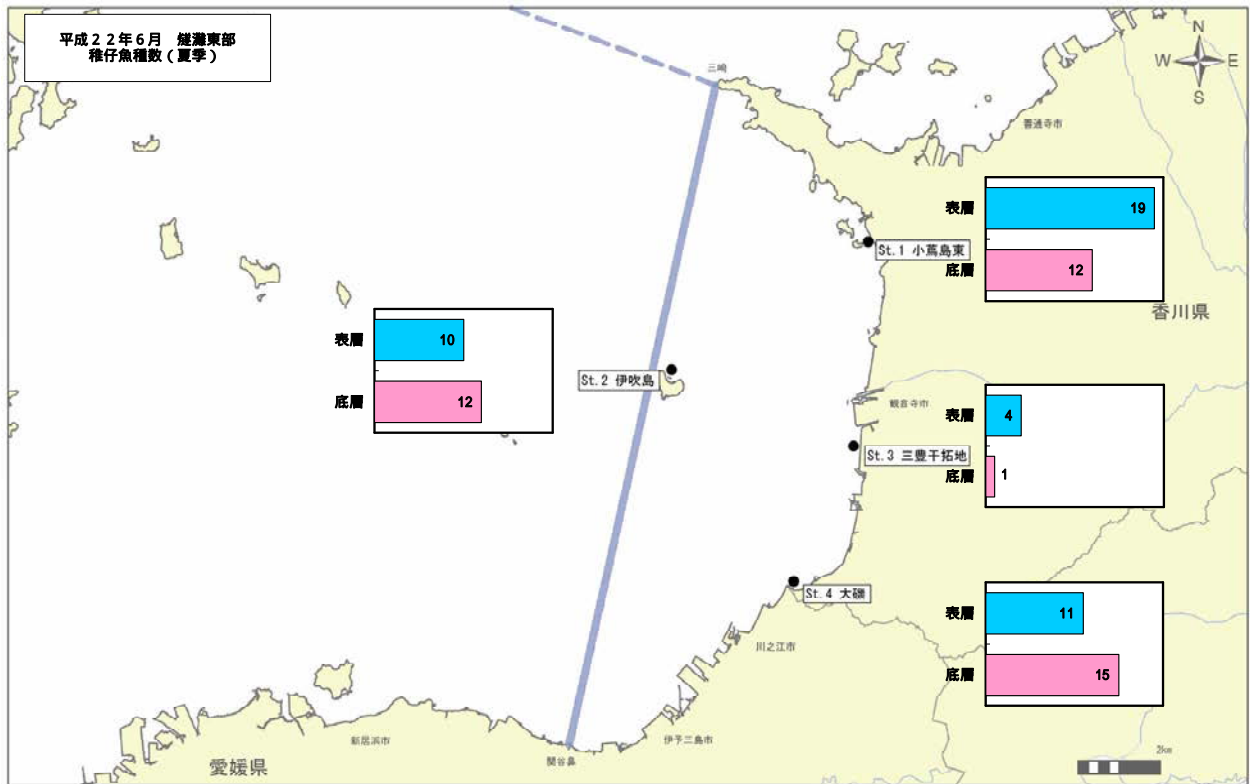
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(3) 魚卵個体数の出現状況 (夏季)



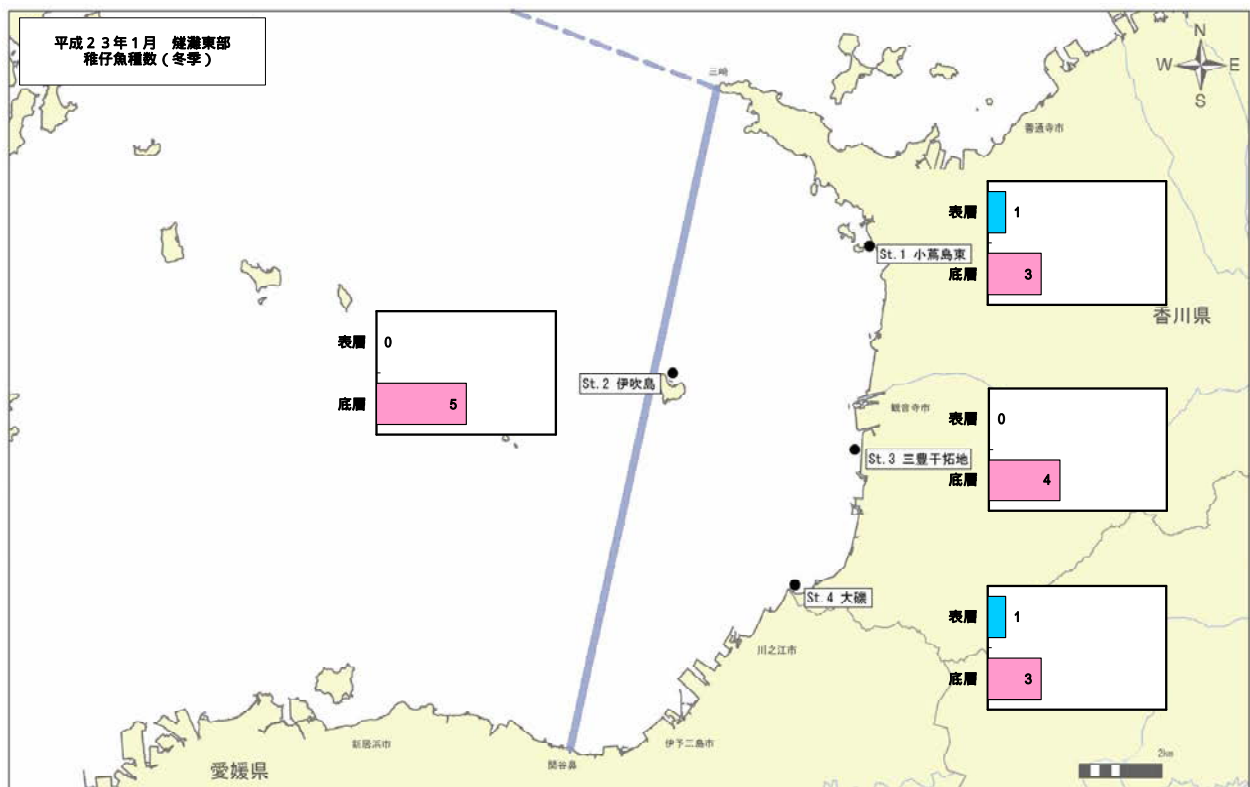
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(4) 魚卵個体数の出現状況 (冬季)



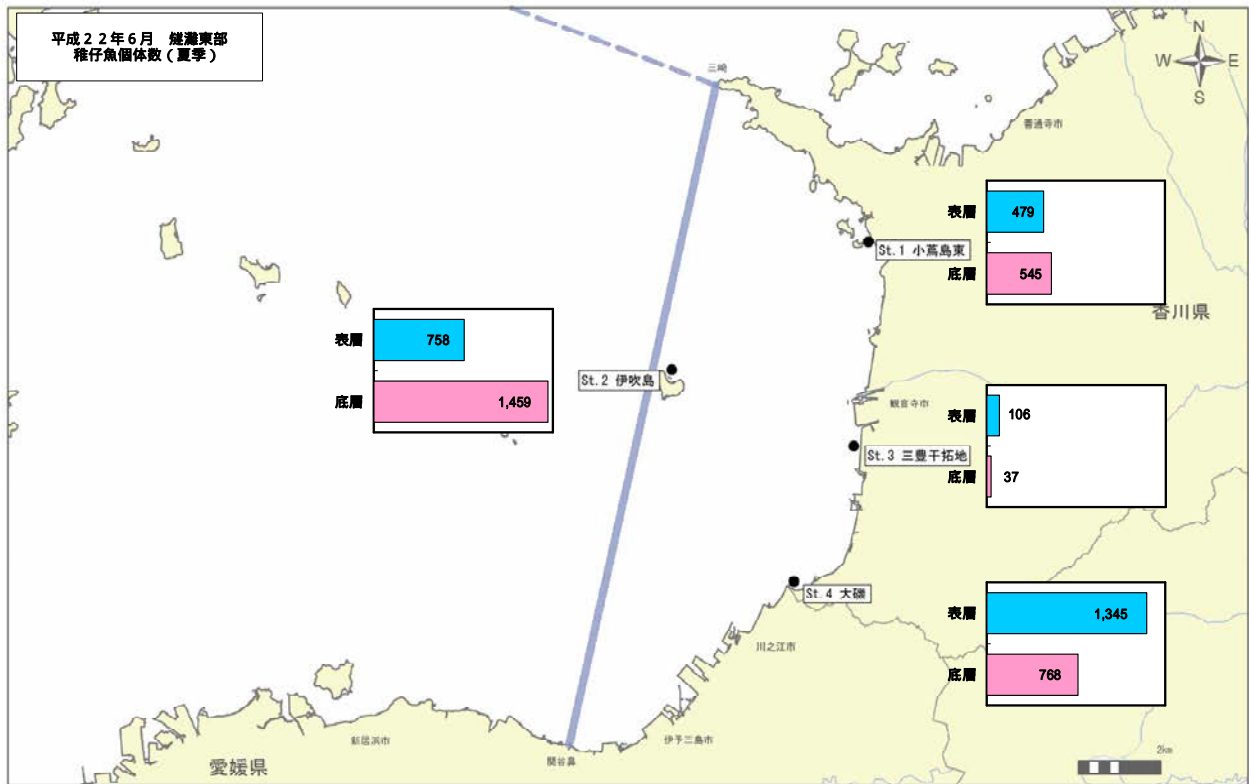
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(5) 稚魚種数の出現状況 (夏季)



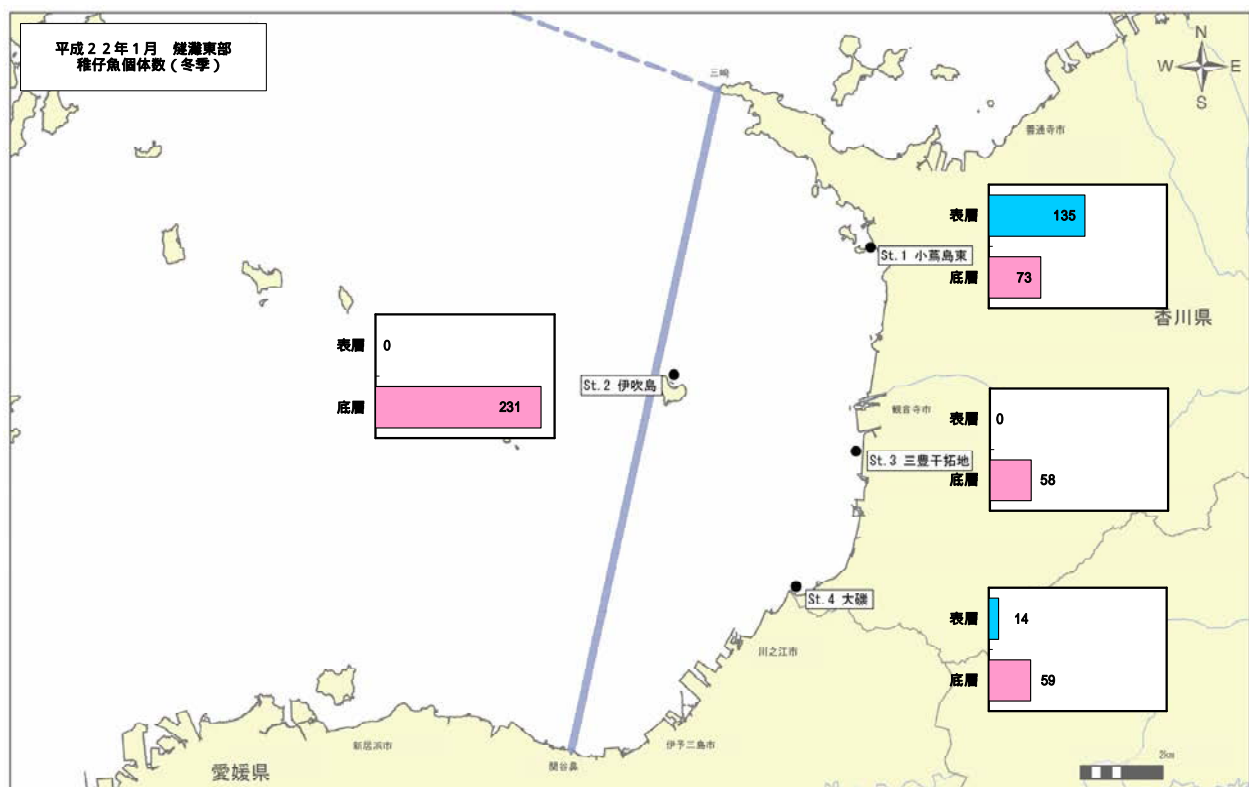
出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(6) 稚魚種数の出現状況 (冬季)



出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(7) 稚仔魚個体数の出現状況 (夏季)



出典：「平成22年度水生生物類型あてはめに係る生物生息状況調査業務 報告書」により作成

図 3.11(8) 稚仔魚個体数の出現状況 (冬季)